

1 列強の進出と西アジアの動向 (P.106, P.206)

列強の進出	トルコ	エジプト	アラビア半島	イラン	アフガニスタン
第2次ウィーン包圍失敗(1683) カルロヴィッツ条約(1699) ●オスマン帝国、ヨーロッパから後退	1789 セリム3世の近代化政策	1798~1801 ナポレオン=ボナパルトによる占領	1744 ムハンマド=ブン=サウード、ワッハーブ王国の建国	1796 カージャーール朝の創設 初代皇帝アーガー=ムハンマド	18世紀中頃 アフガニスタン王国の独立
ギリシア独立戦争(1821~29) 第1回エジプト・トルコ戦争(1831~33) ●ロシア勢力の拡大 ●オスマン帝国の弱体化	1826 (P.107写) マフムト2世、イェニチェリ全廃 1839~76 タンジマート(恩恵改革)	19世紀前半 バシヤ(太守)ムハンマド=アリー近代化と第1回エジプト・トルコ戦争	1823 ワッハーブ王国の再建	1828 トルコマンチャーイ条約	1838~42 第1次アフガン戦争
第2回エジプト・トルコ戦争(1839~40) クリミア戦争(1853~56) 露土戦争(1877~78) ●ロシア勢力の後退 ●ヨーロッパ列強の本格的進出	1876 ミドハト=バシヤのミドハト憲法 1889 青年トルコ結成 1908 (P.193写) 青年トルコ革命	1869 スエズ運河開通 1881~82 アラービー=バシヤの反乱 1914 英による保護国化	1848~52 バーブ教徒の乱 1856 (露の支持) アフガン進攻 1891 タバコ=ボイコット運動 1905~11 イラン立憲革命	失敗 1857 (英の支援) イランからの独立 1878~80 第2次アフガン戦争 1880 英による保護国化	

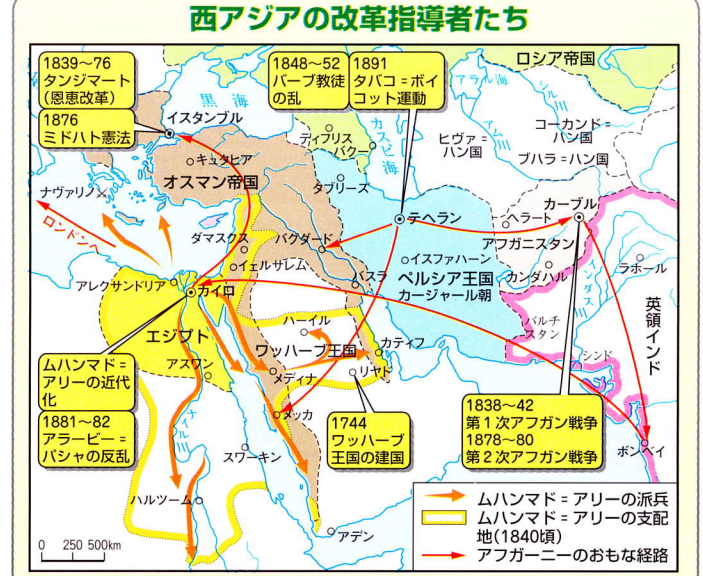
1890年代のスエズ運河



1869年セッブス(仏)が完成。ケーブル経由長約1万km短縮。全長162.5km。

Ⓛ スエズ運河 同年に開通したアメリカ大陸横断鉄道と並び、世界の交通網を変えた。1875年ディズレーリ内閣(英)はエジプトの財政難に乗じスエズ運河会社の株式を買収した。

2 オスマン帝国の領土縮小(17世紀末~19世紀末) (P.107, P.144, P.196, P.2)



列強の侵略に対するイスラム世界の動きには、ムハンマド=アリー(エジプト 1799~1849)の土地・軍隊・教育制度の西欧的近代化と、アフガニー(1838~97)のパン=イスラム主義によるイスラムの回結という、大別して2つの方向があった。

